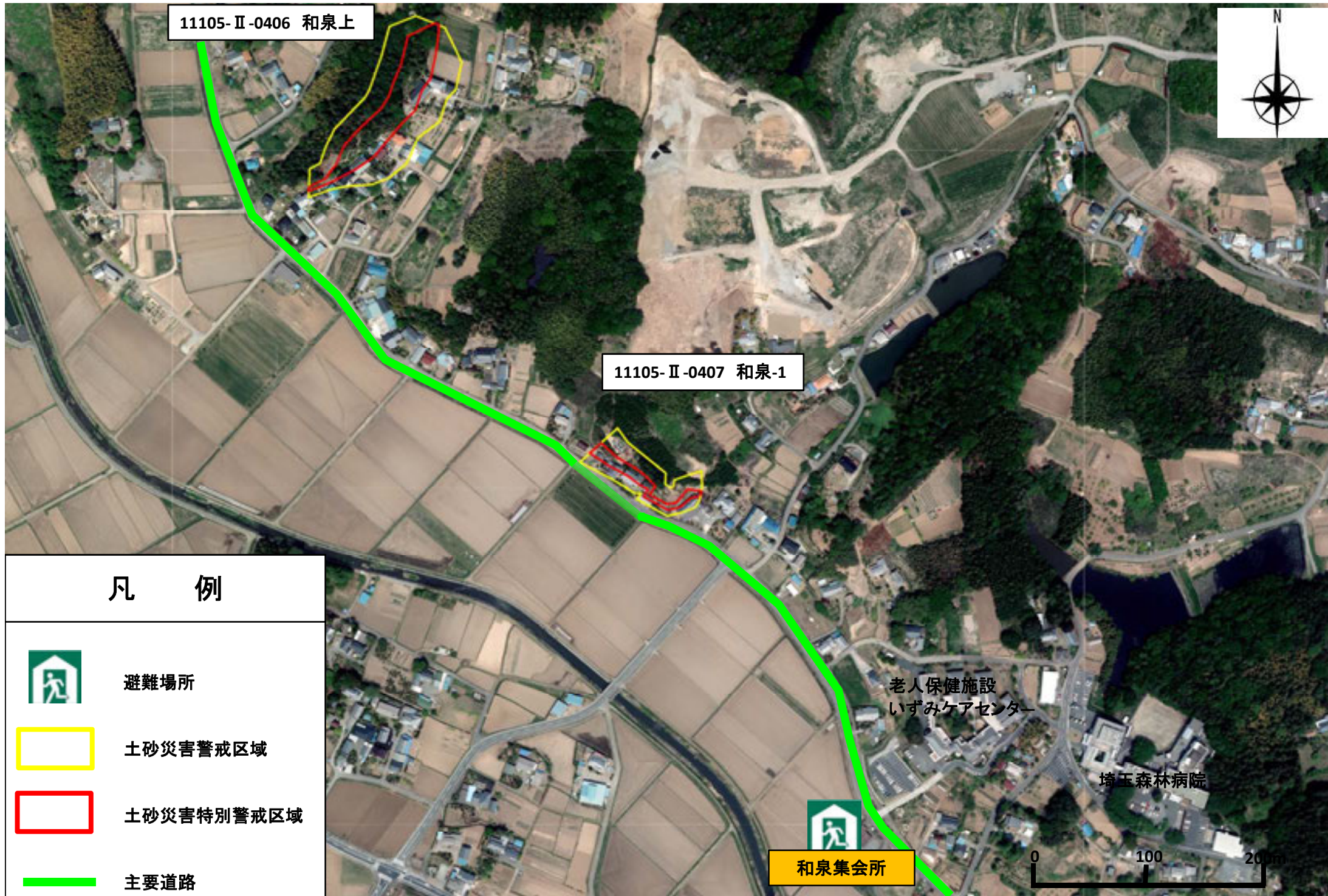


滑川町大字和泉地区(和泉上・和泉一)

土砂災害ハザードマップ

あなたの避難場所: 和泉集会所



- ### 【緊急連絡先】
- ・滑川町役場
0493-56-2211
 - ・東松山消防署滑川分署
0493-56-2221
 - ・東松山警察署
0493-25-0110
 - ・東松山県土整備事務所
0493-22-2333

凡 例	
	避難場所
	土砂災害警戒区域
	土砂災害特別警戒区域
	主要道路



○黄色で囲まれた範囲(土砂災害警戒区域)は、『土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じる恐れのある区域』です。
○赤色で囲まれた範囲(土砂災害特別警戒区域)は、『土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民の生命又は身体に著しい危害が生じる恐れのある区域』です。
・土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、大雨の時には警戒避難が必要となりますので、注意してください。
・また、土砂災害警戒区域以外の箇所でも土砂災害の発生する可能性がありますので、自分の住んでいる家の周辺の斜面や溪流、避難場所などをよく確認しましょう。

土砂災害に備えて 大雨の時など避難の際に必要なとなりますので、家族全員がわかる場所に貼っておきましょう。

①土砂災害警戒区域や避難場所等を確認しておきましょう！

②雨が強くなってきたら、積極的に雨量情報、予報、警報等の情報を入手しましょう！

- ◎まずはテレビやラジオ等で気象情報を確認しましょう。
- ◎雨が強くなってきたら、電話やインターネットでも確認しましょう。

熊谷地方気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/kumagaya/>
 埼玉県河川砂防防災情報システム
 パソコンから <http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/saitama/dosya/>
 携帯電話等から <http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/saitama/dosya/i/>

電話応答による雨量情報サービス（熊谷地方気象台）：048-526-8415

◎避難準備情報が出たら・・・

家族等との連絡、非常用持出品の用意等、また避難に時間を要する方は、避難を開始して下さい。

◎避難勧告が出たら・・・

避難場所への避難行動を開始して下さい。

◎避難指示が出たら・・・

避難していない場合は避難行動に移るとともに、避難場所への避難が困難な場合には、周囲の建物より比較的高い建物（鉄筋コンクリート等の堅固な建物）の2階以上（斜面と反対側の部屋）に避難するなど、生命を守る最低限の行動をして下さい。




◎家族と連絡がとれない時は・・・

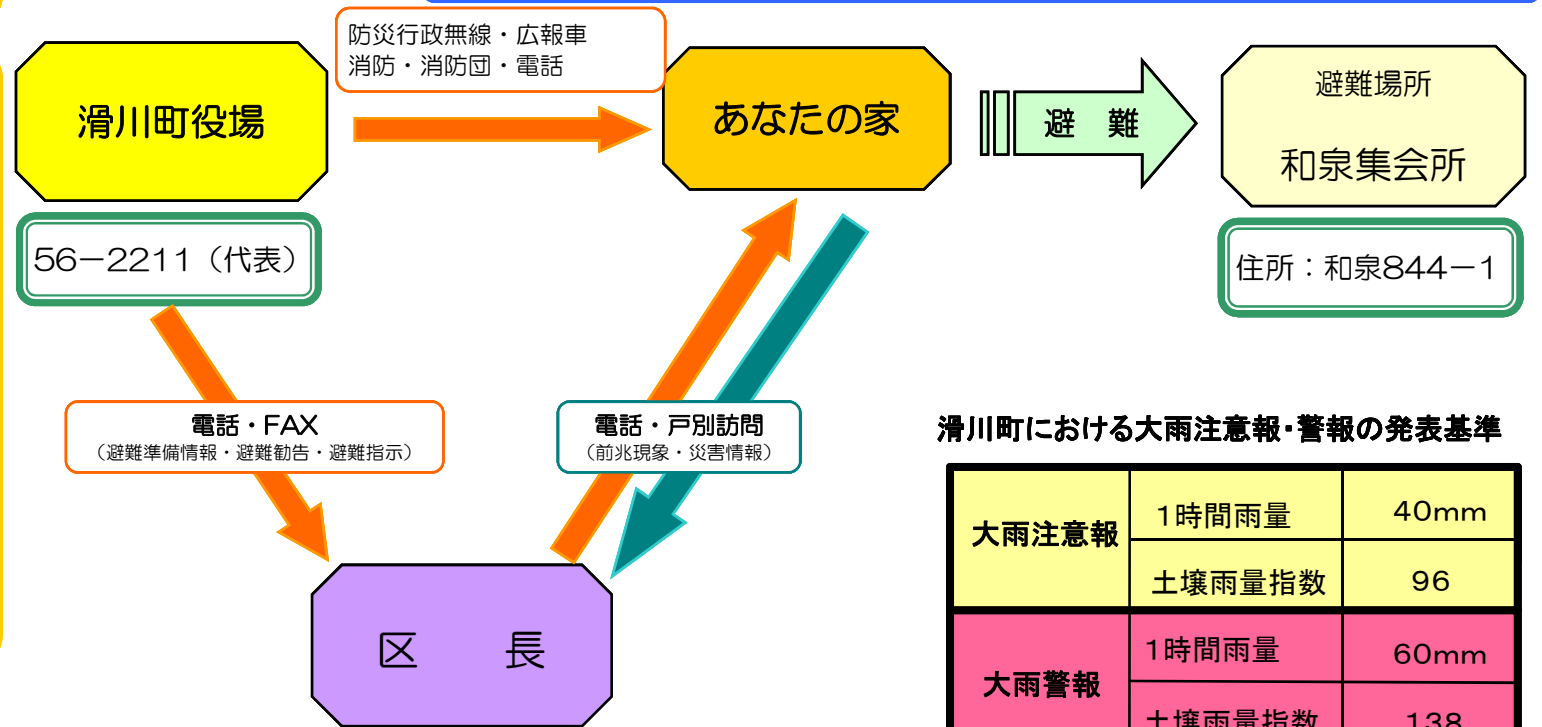
NTT災害伝言ダイヤルの活用（忘れてナイナイ）

- メッセージの録音：171+1+（市外局番からの自宅電話番号）
- メッセージの再生：171+2+（市外局番からの自宅電話番号）

※携帯電話からもかかります。

③前兆現象をみつけたら、直ちに区長・役場などに連絡しましょう！

土砂災害の種類	前兆現象
がけ崩れ	がけに 割れ目がみえる。 がけから 水がわきでている。 がけから 小石がばらばらと落ちてくる。 
土石流	急に川の流が濁り 流木が混ざっている。 山鳴りがする。 雨が降り続けているのに 川の水位が下がる。 
地すべり	沢や井戸の 水が濁る。 地面に ひび割れができる。 斜面から 水がふき出す。 



④避難勧告などの連絡があったら、直ちに避難しましょう！

避難情報が発表される前でも、前兆現象等により危険を感じたら急いで避難しましょう。土砂災害から命を守るため早めの避難を心がけましょう。

⑤避難の際はこんなことに気をつけましょう！

- ◎避難所へ避難する際は、他の土砂災害危険箇所や浸水するおそれがある区域を避けた避難経路を選択しましょう。

雨の強さと災害の発生状況

1時間雨量	人が受けるイメージ	災害発生状況 ※
10~20 mm	ザーザーと降る	長く続くときは注意が必要。
20~30 mm	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれることがある。
30~50 mm	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ・がけ崩れがおきやすくなる。都市では下水管から雨水があふれることがある。
50~80 mm	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80 mm以上	息苦しくなるような圧迫感がある・恐怖を感じる	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要。

※通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。